

〔講演要旨〕 寛政西津軽地震・津波による津軽西海岸地域の被害と地形変化

弘前大学大学院 地域社会研究科 白石 睦 弥

§ 1. はじめに

寛政西津軽地震は、寛政四年十二月二十八日(1793年2月8日)昼八ツ時(午後2時半)頃に発生した地震で、主な被災地域は鯨ヶ沢・深浦を中心とする津軽領西海岸の町や村である。

推定マグニチュードは 6.9 から 7.1、震源は大戸瀬崎の約 13 km 沖合であり、推定震度は深浦・鯨ヶ沢で VI、弘前までが V 程度である。地震にともない、即刻津波も発生したとされ、「弘前藩庁日記 御国日記」(以下、「御国日記」)には、沿岸で家屋が潰れたり流失したという記事も見える。

§ 2. 津軽領西岸の被害と弘前藩の対応

同地震に際し、城下での揺れも強かったようで、当日の「御国日記」にも「地震強シ」と記されている。しかし、弘前藩は地震発生の初期段階で西岸地域の被害を全く認識していなかった。これは、弘前城下と西岸一円をつなぐ街道が地震のため通行不能となり、第一報が遅れたためである。それでも、十二月三十日に鯨ヶ沢町奉行、翌年正月朔日には深浦町奉行からの報告が寄せられ、二月一日には全体の被災状況を把握し、江戸屋敷へ飛脚を立てた。

この地震にともなう余震はわりあい長く続いたようで、正月十日に至り、弘前城内では、玄関前に仮御用所を設置、そちらで政務を執り行った。「御国日記」におそらく最後と思われる余震が記されるのは、寛政五年(1793)正月二十四日のこと、「地震相止候」と記され、災害後の状況が一応の収束を見せるのは、同二月二十日のことである。

同正月二十六日条には、鯨ヶ沢をはじめ高杉や木造の御蔵に入っていたもののほか、移動中の百姓が津波に見舞われるなどして 531 俵の駄下米が濡米と 1 になったことが記録されている。これらの濡米は、放置すれば朽米となってしまうため、藩庁では先の仮御用所で早速沙汰を下し、鯨ヶ沢・深浦・赤石組など被害の大きかった地域に手当としてほとんどが施与されることとなった。

他にも内陸に入った沢目の村々では、山崩れも発生し、追良瀬川では川が塞き止められてダム状のものが形成され、のちに決壊し、洪水が発生するなど、多様な被災状況が発生した。なお、このような山崩れによって川だけでなく田の用水堰も埋まるなどしたようで、藩庁では三月末に至り、人夫 12,000 人余りを動員して、この普請工事にあたっている。

先述の「御国日記」同二月朔日条の被害一覧には全体で死者が 12 人、「潰家」が 154 軒など、主な被害

状況が記されている。それほど大きい被害にも思われないが、弘前藩では、この地震を重大な危機として認識しており、領内寺社で祈祷が行われた。この「国家安全」祈祷は、近世期津軽領最大の地震とされる明和三年(1766)の明和津軽大地震や、元禄飢饉・天明大飢饉、寛政期の異国船来航などに際して執行されたものと同様である。同地震は対外危機や食糧危機などの国家的危機と同等、もしくはそれに準ずるものとして捉えられていたと考えられる。

§ 3. 西海岸地域の地形変化

本地域の地形変化でこれまで知られているものとして、千畳敷海岸の形成があげられるだろう。当時「荒崎」と呼ばれた、緑色凝灰岩の海食台地は、寛政西津軽地震に際して深浦で 20 cm、もっとも顕著であった大戸瀬で 350 cm 隆起し、離水したと考えられている。「津軽俗説後々拾遺 千八百解」にも「深浦街道干潟になりて、今の街道者むかしの海中なりと云」と記され、その景色は筆に尽くしがたいものであったようだ。隆起後の大戸瀬は山形岳仙の「合浦山水観」などにも描かれ、現在も景勝地として知られている。

しかし、一方で文政 7 年(1824 年)の百川文平筆「陸奥国津軽郡之図」によれば、同地震に際して海中に沈んだ場所があるという。この絵図には、鯨ヶ沢付近に「此処、辨天崎ト云、先年大地震、後、悉海中入」と記され、鯨ヶ沢の弁天崎という場所が、寛政西津軽地震と推察される大地震の後に、全て海中へ没してしまっただけではない。

寛文二年(1662 年)に成立した「陸奥国鯨ヶ沢之図」には、浜町付近の海岸より突出した弁天崎と推定される部分を見ることができる。しかし、同地震後描かれた、元治元年(1864 年)の「東奥津軽山里海観図」では弁天崎を確認できず、海中に幅 5 尺長さ 7 町の「長瀬」が存在すると記されている。

これら 2 地点での地形変化について、詳細な検討は今後の課題としたい。

主要参考史料・絵図

「弘前藩庁日記 御国日記」、弘前市立弘前図書館蔵津軽家文書。

「津軽俗説後々拾遺 千八百解」、弘前市立弘前図書館蔵岩見文庫。

「陸奥国津軽郡之図」、弘前市立弘前図書館蔵津軽家文書。

「合浦山水観」、青森県立郷土館蔵。

「陸奥国鯨ヶ沢之図」函館市立中央図書館蔵、「新編 弘前市史」編纂委員会編、1996、新編 弘前市史 資料編 2 近世編 1 付図)。

「東奥津軽山里海観図」、青森県立郷土館蔵。